

令和元年度 大垣市立江並中学校 学校評価

※各項目の評価は、四段階評価を実施し、肯定的な回答（そう思う・どちらかといえばそう思う）の割合を示したものです。

経路 指標	目 標	方 策 (網掛けは今年度の重点)	教職員評価項目	目標値	評価	外部アンケート評価項目 (上段:生徒 下段:保護者)	評価	自己評価 (○成果 ●課題)	学校関係者評価	次年度の改善策
1. 学ぶ喜びのある授業	(1)「分かる・できる」授業づくり	① 教科の本質に向かう題材・課題・ゆきぶり(深い学び)のある授業を行う。	生徒は、授業が楽しく、わかる、できると感じている。	85%	90.0%	授業の課題が分かったり、できたりして面白いと感じた。	91.0%	○ICT機器の活用や学習室の整備など、学習環境の整備に努めることができた。 ●教材準備および教材研究の効率化。	・少子高齢化の中で子どもが自立できるか親として心配である。グローバル社会を生き抜く力を育てたい。	・教育課程全般の見直しを通して、時間外勤務時間を縮減し、教職員の自己研鑽の時間を確保する。
						わかるまで、できるまで取り組むなど、「粘り強く学ぶこと」の大切さを子どもに話している。	72.0%			
						課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	82.2%			
	② 「自分の言葉」「分からないこと」の表明(主体的な学び)ができるようにする。	生徒は、授業で自分から考えを伝え、わからないことを聞いている。	80%	80.0%	考えを伝えたり、質問したりするなど、「進んで学ぶこと」の大切さを子どもに話している。	78.8%	○積極的に発言しようとする意識は高まってきている。 ●分からないことを進んで質問できるようにする指導。			
					私は、仲間と教えあったり、話し合ったりして学習していた。	94.0%				
③ 小集団での学び(対話的な学び)を取り入れる。	生徒は、授業で仲間と教えあったり話し合ったりする活動に取り組んでいる。	80%	95.0%	教員は、仲間と教えあったり、話し合ったりして学習していた。	71.3%	○小集団学習(エナG)をさまざまな場面で位置付けている。 ●発問など、学習を深める場面の指導の工夫。				
				私は、宿題や家庭学習を毎日行うことができた。	87.0%	●自分で計画を立てられるようにする指導。				
(2)自ら学ぶ学習習慣づくり	④ 自学(宿題・予習-授業-復習のサイクル)の習慣が身に付くようにする。	生徒は、宿題などの家庭学習に毎日取り組んでいる。	85%	85.0%	私は、宿題や家庭学習を毎日行うことができた。	82.5%	●自分で計画を立てられるようにする指導。	・帰りの会で帰宅後の予定などを交流する時間を設ける。		
2. よりよい集団	(1)一人を大切にする居場所づくり	⑤ 大きな声で話し、話す人(目)を見て聞けるようにする。	生徒は、授業で大きな声で話し、話す人の目を見て聞いている。	80%	90.0%	自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた。	84.4%	○学習規律としての聞き方、話し方は身に付けてきている。 ●よりよい聞き方、話し方を求めようとする意識を高める指導。	・保護者の評価が低い。たしかに、朝の生徒の姿を見ると、挨拶してくれる生徒もいるが反応のない生徒もあり、相手に正対する弱さが共通しているのではないかと感じる。	・授業、集会その他の話し合いで、積極的に質疑応答の場面を設ける。
						私は、人を傷つける言動をしなかった。	80.0%			
						子どもは、家族やまわりの人を傷つける言動をせず生活している。	81.8%			
	⑥ いじめを許さない支持的風土を醸成する。	生徒は、学校で人を傷つける言動をしていない。	80%	60.0%	学校に行くのは楽しいと思う。	80.2%	○早期発見、早期対応できた事案が多かった。 ●未然防止につながる日常の指導。			
					悩みがあるときは、家族や教員、友達など、誰かに相談するよう子どもに声をかけている。	91.7%				
⑦ 不登校の傾向の生徒への支援を行う。	学校の職員は、生徒の悩みを聞いている。	80%	95.4%	目標をもって生活している。	82.3%	○悩み等の相談ができる機会を増やすことができた。 ●本人・保護者の願いや納得を大切にするなど、対応の充実。				
				私は、人を傷つける言動をしなかった。	80.0%					
(2)生き方を求める学級活動の推進	⑧ 一人一役での係活動を通じた自分づくりを行う。	生徒は、目標をもって学校生活を送っている。	80%	90.5%	子どもは学習や生活、将来のことなど目標をもって生活している。	71.2%	●キャリア教育の観点を踏まえた日常の指導。	・少子高齢化の中で子どもが自立できるか親として心配である。グローバル社会を生き抜く力を育てたい。	・よさや弱さを認め合う集団づくりを徹底する。 ・日常的に情報モラル指導を行う。	
					学級目標の具現と学級文化を構築する。	80%	100%	学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。	91.1%	○事前、事後も含め行事に関する指導が効果的であった。 ●中間の思いに目を向けられるようにする指導の充実。
	⑨ 学級目標の具現と学級文化を構築する。	生徒は、学級の活動に仲間と協力して取り組んでいる。	80%	100%	委員会や係活動が活発に行われ、学校や学級の向上につながった。	95.0%	○誠実に役割を果たそうとする態度が育ってきている。 ●試行錯誤の経験をひとりだちにつなげていく指導。	・主体性を育てる指導を明確にする。 ・試行錯誤の機会を増やせるよう、ターム毎の指導を見直す。		
					子どもは、自分に与えられた役割を果たそうと努力している。	86.4%				
⑩ 私はどう思う(主体性)→あなたはどうか(社会性)→では、こうしよう(文化性)という場面を設ける。	生徒は、行事や生徒会活動、係活動に進んで取り組んでいる。	80%	95.4%	友達や先生、地域の方に挨拶できた。	92.5%	●よりよい挨拶のあり方について考え、実行する力を伸ばす指導。	・教職員と生徒の評価の乖離が大きい。評価の基準を明確にして共有すべきだ。			
				子どもは、家族やまわりの人に進んで挨拶をしている。	83.4%					
(1)礼節の徹底	⑪ 気持ちのよい挨拶ができるようにする。	生徒は、学校で気持ちのよい挨拶をしている。	80%	68.2%	時間を守ったけじめのある生活ができた。			93.0%	●自己管理できる力を付ける指導。	・教職員と保護者の評価の乖離は、「学校ではできるが、家ではできない」ことを示している。この状況では、生徒に身に付いたとはいえない。 ・教職員の評価は厳しすぎるのではないかと、結果だけでなく、成長の過程を認めていくことも重要である。
					子どもは、決められた時間を守ろうと意識して生活している。			76.5%		
⑫ 時間を守って行動できるようにする。	生徒は、時間を守って学校生活を送っている。	90%	81.8%	子どもは、自分が使う場所や物の整理整頓ができています。	56.8%	●交通安全の未然防止につながる指導。	・教職員と生徒・保護者の評価の乖離が大きく、交通事故や交通マナーの実態を考えると、教職員の評価も理解できる。			
				子どもは、家で掃除をしている。	53.0%					
⑬ 机、ロッカーを整頓できるようにする。	生徒は、教室の机やロッカーを整頓している。	80%	81.8%	通学路や交通マナーを守って登下校できた。	95.0%			○中学生としての役割を自覚して参加することができている。	・体験型の交通安全教室を開催する。	
				子どもは、外出する際に交通マナーを守っている。	96.9%					
⑭ 掃除に一生懸命(白床)に取り組めるようにする。	生徒は、分担された掃除場所を一生懸命取り組んでいる。	80%	86.4%	今住んでいる地域の行事に参加している。	77.2%	○中学生としての役割を自覚して参加することができている。	・行事に参加する前の事前指導を充実させる。			
				子どもは、地域行事に参加している。	69.7%					
(3)自分の命を自分で守る習慣づくり	⑮ 登下校で交通マナーを守ることができるようになる。	生徒は、登下校時の交通マナーを守っている。	80%	50.0%	子どもは、地域行事に参加している。	77.2%	○中学生としての役割を自覚して参加することができている。	・体験型の交通安全教室を開催する。		
					子どもは、地域行事に参加している。	69.7%				
(4)公共心の育成	⑯ 地域の行事に参加できるようにする。	生徒は、地域の行事に参加している。	70%	86.4%	子どもは、地域行事に参加している。	77.2%	○中学生としての役割を自覚して参加することができている。	・体験型の交通安全教室を開催する。		
					子どもは、地域行事に参加している。	69.7%				